

第5回ドリームキャンプ134名参加、新しいステップへ！

7月29日～31日 宮城県気仙沼大島にて開催



「大島っていいところですねー」と、閉会式の実行委員長挨拶で思わず口にしたのが、今回キャンプを終えた率直な感想です。美しい

海、緑あふれる山々、蜃にも出会えた。ドリームキャンプを通して、大島の自然の豊かさを再発見いたしました。

第5回ドリームキャンプは、初めて地元「気仙沼大島」での開催であり、海でのプログラムがあることから、多くのご心配の声も頂きました。おかげさまで事故もなく、隊員（小学生・中学生）78名、スタッフ（高校生以上56名、総勢134名が、無事にキャンプを終えて日常生活に戻る事ができたことに、心より感謝申し上げます。

今回5回目にして、初めて地元での開催が

実現しましたが、これはドリームキャンプの今後の展開を願った選択でした。

これまでドリームキャンプの運営は全国から集まるボランティア・スタッフで支えられてきました。東日本大震災から5年が経過し、また今年は熊本地震も発生しました。今後の継続を考えると、地元で運営できる体制を徐々に作っていく必要があるのです。

そのため、気仙沼で活動しているNPO団体などと協力し、地元の人にも参加しやすい環境で開催することが必要だと考えました。その結果として、今回2つの地元団体との関係が生まれ、スタッフとしては気仙沼からは5名が参加して下さいました。

さらに将来的にはドリームキャンプに参加した子どもたちが、ドリームキャンプを支えるリーダーに成長してくれることを願っています。特に、ジュニア隊で活動してくれた中学生のみなさんは、高校生となってドリームキャンプの班付リーダーとなり、子どもたちと

一緒に活動してくれることを願っています。ぜひ、私たちの仲間となってドリームキャンプを盛り上げてほしいと思います。

震災後、被災地の人たちは、知らず知らず海から遠ざかり、海で遊ぶ機会が極めて少なくなっています。子どもたちの中には初めて海に入る子や、初めて大島に渡る子もいました。海水のしよっぱさきに驚き、砂浜が日光に焼かれて熱いことに驚く子どもの姿が印象的でした。海水の味は、実際に舐めてみなければわかりません。とてもよい経験となったことでしょう。

野外活動を通して子どもたちがのびのびと成長してくれることは親の願いです。子どもたちがいのちを輝かせて、笑顔いっぱい走り回るシーンは、何ものにも代えられない私たちの喜びです。今後もドリームキャンプが継続でき、子どもたちのいきいきとした姿が見られることを願ってやみません。

(実行委員長・奥原幹雄)



3日間晴天に恵まれたドリームキャンプ！ 360度カメラで写した友情の輪（撮影：阪本正雄）



フェリーに乗って大島へ出発



気仙沼フェリーターミナルから大島まで25分



小田の浜での海水浴



キャンプファイヤー

自然の恵みの中で

みやぎ心のケアセンター 気仙沼地域センター

津島 さおり

私は普段、東日本大震災により心理的影響を受けた方々の心のケアを行うために設立された「みやぎ心のケアセンター」で働いています。その中で、今回ドリームキャンプに初めて参加させて頂いたいただきました。大島は海に囲まれており、震災時の怖かった体験を思い出してしまう子どももいるのではないかと、正直心配に思うところもある中で、キャンプの日を迎えました。

私が担当したのは、1～3年生の7人でした。震災当時は、子どもたちは幼児期であり、親御さんはご苦労されたことと思います。今回、親御さんにとっても参加に対しては勇気が必要ではなかったでしょうか。しかし、担当した子どもたちからは、海への恐怖心や震災時の話ではなく、「家に帰ったら、海で泳いだことを伝えるよ」「お母さんはこんな仕事をしていたら、お母さんは僕の迎えに来てくれるよ」「普段は喧嘩をする弟に会いたくなかった」と親御さんや家族への思いが多く語られていました。

ドリームキャンプは、震災の被害を受けた子どもたちに、自然の中で思い出を作り、仲間の大切さや自然

の恵みの尊さを感じてほしい、という願いから始まったとのこと。この願いの通り、いつもとは違う環境の中、子どもたちは自分の力で頑張りました。他校の児童と交流もあり、かけがえない時間を過ごすことができました。小さい身体からは想像できないほどの行動力に驚かされ、私自身教わる事が多くありました。2泊3日という短い時間でしたが、子どもたちと笑い声にあふれた時間を過ごすことができました。キャンプに参加した子どもたちは笑顔でしたが、心の傷を癒すことができずにいる子どもも地域にはいると感じます。震災の経験について、自分の気持ちが話せる時期はそれぞれです。その時には、じっくり話を耳を傾けてもらうことや安心して活動できる場が提供されること、また信頼関係を築き、寄り添い、寄り添われるという体験は、子どもたちにとって重要です。このキャンプはそれらを得る機会であると感じました。ドリームキャンプは今後も継続して開催される予定とのこと。また来年、成長した子どもたちに会いたいです。

